

11月11日～12月12日
電池月間



でんち

社団法人 電池工業会

BATTERY ASSOCIATION OF JAPAN

〒105-0011 東京都港区芝公園3丁目5-8
機械振興会館内

電話 (03) 3434-0261 (代)

E-mail. bajapan@hi-ho.ne.jp

ホームページ <http://www.baj.or.jp/>

振替口座 東京8-91022

発行人 木村侃丘

定価1部郵送による年決め2,400円

平成15年1月1日

BATTERY ASSOCIATION OF JAPAN



2003年 年頭所感

謹んで新春のお慶び申し上げます。

平成15年の新春を迎えるにあたりご挨拶申し上げます。

.....
昨年度の日本経済は緩やかな回復を見せましたが、内外を取り巻く不透明感是一段と強まっており、アメリカ経済等の先行き懸念や、わが国の株価低迷など環境は厳しさを増し、依然需要の回復は見当たりません。このような状況におきまして電池業界は、かつてない厳しい状況にあります。2002年度の総出荷個数は67億個、前年比101%、総出荷金額は7,124億円、前年比96%となる厳しい見通しであります。

商品別に見ますと、鉛蓄電池では自動車用電池が個数で前年を上回りましたが、全体では数量、金額とも93%と大きく下回る見込みです。民生用小形二次電池は、昨年始めて前年を割りこんだリチウムイオン電池が数量で前年を上回る126%になりましたが、価格下落に伴い金額では101%になる見込みです。また、ニカド電池、ニッケル水素電池とも前年を割り二次電池全体では数量98%、金額96%と若干下回る見込みであります。

一方、一次電池は数量で102%、金額で98%となる見込みです。全体に見ますと数量では何とか前年を維持しておりますが、金額においては下回る大変厳しい状況になっており、今後は価格下落の傾向が全般に進



社団法人電池工業会 会長 田中 千秋

むものと思われま。

.....
さて、市況を見るとなかなか好材料は見つかりませんが、電池工業会としては次の点について積極的に事業展開をはかる所存でございます。

第一に「環境保全に関する活動」です。昨年度から継続しております課題ですが、本年も最も重要な活動と考えております。3年目を迎え名実と共に充実を図っておりますのが「小形二次電池再資源化推進センター」です。3Rを目指した循環型社会の構築に向けた活動に対して、多面的により一層の支援をしてまいりたいと思います。

また2004年の自動車リサイクル法施行に向け、昨年度は新システムに向け特別プロジェクトチームを再編し、回収・再資源について関連官庁、団体と積極的に対応してまいりましたが、本年度も引き続き重要課題として位置付け、円滑な運用方法について検討してまいります。

第二に「広報に関する活動」です。

電池の正しい使い方、電池の上手な使い方、使用済み電池の処理の仕方など、ここ数年積極的にPRをしてまいりましたが、まだまだリサイクルできる電池が無駄に廃棄されたり、思わぬ事故やクレームが発生しております。一般消費者の方にもっと電池のことを理解・認識していただくため、本年度も「電池月間」を中心に広報活動に取り組んでまいります。例年、東京・池袋で行なっている「でんちフェスタ」や12年目を迎え、認知度も高まっています「プロ野球最優秀バッテリー表彰」のイベント事業、また小形二次電池の回収リサイクルを目的とした「充電式電池リサイクルキャンペーン」、液面点検やリサイクル方法をPRする各種の展示会など盛りだくさんの企画を提案していきたいと考えております。

第三に「国際交流に関する活動」です。

電池工業会の会員各社のグローバル化は、生産・販売

で毎年拡大しておりますが、先ず欧米の工業会とは環境問題を始め、安全性やPLに関する国際取り決めなどを行い、連携を深めてまいりました。

また昨今、日本企業の中国への進出が目立ちますが、同工業会との責任者会議で具体的な課題について意見交換を進め、国際交流の促進を図っております。

その他IECでの標準化の活動も海外関連機関と連携を強化し、日本の地位向上のため積極的に取り組んでまいります。

21世紀は電池の時代です。

経済産業省よりの「15年度情報政策の概要」によりますとIT活用による経済・社会の再生が謳われております。電池はこのIT社会をあらゆる面で支え、その発展に大きく寄与していくものと思われれます。

また環境問題に対しても電池の果たす役割は大きく、自動車をはじめ各種電源において全世界から注目を浴びております。

厳しい局面が続いておりますが電池に対する期待、需要は間違いなく高まっております。大きな夢に向けて、各会員各社のますますの発展と関係省庁ならびに関係ご各位のご指導、ご支援をお願いいたしますと共に、皆様方のご多幸をお祈りし、年頭の挨拶とさせていただきます。

経済産業省 商務情報政策局長 林 洋和

平成15年の新春を迎え謹んでお慶び申し上げます。



最近の我が国経済は、牽引役であった輸出の伸びが鈍化したことなどから、このところ改善の動きが足踏み状態となっています。先行きに関しては、米国経済の回復持続性の減退や雇用情勢の悪化などに加え、株価下落が企業業績、金融システムに与える影響も重大な

懸念材料となり、不透明感が一層増しております。

また、戦後の経済発展を支えてきた我が国の経済社会システムが、経済のグローバル化や少子高齢化の進展等の大きな環境変化に十分に適応できなくなっている中、我が国経済の活力を取り戻し、一刻も早い経済回復を達成するためには、経済社会の構造改革を推進して、我が国の持つ潜在力を発揮できる新たな経済社会システムを構築することが急務となっております。

このような認識の下、政府としては、昨年6月に、日本経済の再生シナリオを示す「今後の経済財政運営及び経済社会の構造改革に関する基本方針2002」を閣議決定し、重点的に施策を遂行すべき6つの戦略、30のアクションプログラムを策定し、積極的な構造改革を推進しているところであります。

商務情報政策局としても、これらの方向性を踏まえ、具体的には以下のような政策課題に対し重点的に取り

組んでまいり所存です。

.....

第一は、ITの戦略的活用による経済・産業・社会の再生です。

国民生活の様々な分野でITが活用され、国民の誰もがITの利便性を実感できるような経済・社会システムを構築することが、構造改革を更に押し進める上で重要であります。

このためにまず、ITを利用する全ての企業を対象としたIT投資促進税制を活用するなど、企業がビジネスモデル改革を伴う質の高いIT投資を実現するための環境を整備します。また、昨年11月に設置した「情報技術と経営戦略会議」における企業経営者の方々の議論を踏まえ、企業における先駆的なIT活用の事例について分析・整理し、その基盤整備を図るために、政府として対応すべき課題について提言を行います。

次に、国民本位の行政サービスの実現のため、行政手続の完全オンライン化の早急な実施とバックオフィスの効率化などの業務改革を進めるとともに、情報システムに係る政府調達の見直しを行うなどにより、世界最先端の電子政府を推進します。

さらに、IT社会の基盤を支える、安全で信頼性の高い高度情報通信ネットワークの構築を実現すべく、情報セキュリティ対策や電子商取引に係るルール整備等に取り組んでまいります。また国民全体がITの便益を享受できるよう情報リテラシーの向上に資する教育の情報化を推進します。

.....

第二は、我が国IT産業の競争力の向上です。

現在、経済がグローバル化することに伴う国際的な競争激化の中で、我が国IT産業は厳しい状況に直面しております。我が国IT産業は、IT社会の発展基盤であるとともに、我が国経済において重要な位置を占める産業であり、その競争力の向上を図ることは急務です。

このため、情報家電、半導体及びソフトウェアなどの分野において実用化・市場化に直結する技術の開発を、産学官連携の下戦略的・集中的に進めるとともに、産業再生法を活用し選択と集中の円滑化を図ります。また、IT産業を支える高度なIT技術者の育成を図るとともに、情報処理技術者試験のアジア展開等国際的な視点での人材育成に取り組んでまいります。

.....

第三は、サービス産業の健全な発展のための環境

整備です。

近年、我が国はサービス経済化が進展しており、経済発展や雇用に大きな役割を果たすサービス産業が健全に発展することが重要です。そこで、サービス政策の大きな方向性を定めるべく、昨年12月からサービス産業界で御活躍する方々をメンバーとした「サービス産業フォーラム」を開催しております。そこでの議論を踏まえ、早急に取り組むべき横断的な課題を明確化しつつ、サービス産業界の御意見を政策に反映してまいります。

また、高齢化社会に対応した医療・福祉サービス、デジタル化の進展に伴い今後の成長が更に期待される映画・音楽・ゲーム等のコンテンツ産業などの、個別サービス産業の振興を進めてまいります。

.....

第四は、急速に進む少子高齢化に対応した施策の推進です。

急速な少子高齢化が進む中、活力に満ちた社会を構築していくためには、高齢者・女性の社会参画及び安心で豊かに満ちた社会生活を実現することが重要です。

このため、高齢者や女性の社会参画の促進を可能とする柔軟な就業形態を提示する市民活動等を経済社会システムの新たな活動主体として位置づけ、これらの企業化を促すことにより、新たな雇用の創出や多様なサービスの提供を図ってまいります。

さらに、効率的かつ質の高い医療・福祉サービスの提供を促進すべく、ITを活用した医療・福祉分野における情報化を支援してまいります。また、高齢者・障害者を含めた国民生活の質の向上を図るため、新たな健康産業の創出支援、及び先進的な医療福祉機器の開発支援を積極的に進めてまいります。

.....

経済産業省発足3年目となる本年においても、我々としては、我が国経済の再生のために全力を挙げて取り組む決意であります。もとより、経済の活性化をもたらす基本は民間の方々の活力であり、上記のような施策を進めていくに当たり、関係者の皆様方と一体となって取り組むことが不可欠であると考えております。この場をお借りして皆様方の御理解と御協力をお願いしたいと思います。

.....

最後になりましたが、皆様方の御健勝と更なる御活躍を祈念いたしまして、私の新年の挨拶とさせていただきます。

業界動向

***東芝** ナノ粒子の形状を自在に制御できる合成技術を開発した。記憶装置や電池の性能を飛躍的に向上させるのに役立つという。(11月1日付 日経)

***バルキャン・フューエルセルズ(カナダ・燃料電池メーカー)** 100ワットから5キロワットのPEM方式の燃料電池システムを開発し、これを搭載した自転車を実用化した。(11月1日付 化学工業日報)

***ニッケル水素電池** 単三サイズの容量アップが進行中で、2,100mAh品が登場した。需要も筒形、ガム形トータルが、2000年度は675万本、2001年度は850万本、2002年度は約1,000万本と拡大中。(11月2日付 電波)

***中部電力&三菱重工業** 発電効率の高い固体酸化物型燃料電池を使った分散型電源事業を手掛ける共同出資会社を2004年を目処に設立する。(11月2日付 日経産業)

***油藤商事(滋賀県)** 滋賀県内でガソリンスタンドを展開中の同社は、これを地域のエコロジー拠点にする取り組みを進めている。バッテリー、タイヤ、エンジンオイル等、自動車関連ごみの管理に加え、新たに牛乳パック、乾電池等家庭からの資源ごみの回収を開始。(11月2日付 日経・夕刊)

***中央環境審議会** 廃棄物処理法の改定案を審議中の廃棄物・リサイクル部会は今月中にも部会報告書を纏める方針を固めた。環境省では部会報告書を基に廃棄物処理法や政省令の改定案を作成、来年の通常国会に提出する手筈。(11月5日付 日刊工業)

***プリチストン** リチウムイオン電池の性能を落とさずに不燃化させる添加剤を開発した。主成分はリンと窒素。(11月5日付 日経)

***国土交通省** 燃料電池自動車などの普及を目指し、これら試験自動車の公道走行手続き等の簡素化を行うことを目的に、申請の際の書面や手続きを規定した認定要領を定めた。(11月5日付 化学工業日報)

***ホソカワ粉体技術研究所&大阪大学総合科学研究所** 固体酸化物型燃料電池(SOFC)に使う電極の高性能化に成功した。一般の混合法で作った電極に比べ電気抵抗は1/3、1平方センチメートル当たりの出力密度は2倍になる。(11月5日付 日刊工業)

***翻訳ソフトメーカー** 中国語、韓国語への対応を強化、クロスランゲージ社(東京)や高電社(大阪)、インパルスジャパン(東京)が、日本語—韓国語の翻訳ソフトの発売を開始中。(11月6日付 日経)

***エコネットコンソーシアム(東京)** 国内の主要電機、電力、ガス、通信の各社で組織するエコネット社は、インターネット接続で容易に遠隔操作等が可能なネット家電の通信規格を統一、新規格を発表した。(11月6日付 日経)

***経済産業省** ガソリンや軽油に代わる新しい自動車用クリーン燃料の将来動向を探るため、このほど「次世代低公害車の燃料及び技術の方向性に関する検討会」を設置し検討を開始。(11月6日付 化学工業日報)

***京都電子工業** 果樹農家等が簡単に測定できる携帯型の糖度計を発売した。電源は単4形乾電池二本。(11月7日付 日経産業)

***野村興産** イトムカ鉱業所に新プラントを建設、蛍光灯のリサイクル能力を3.5倍に拡大へ。(11月7日付 日経産業)

***鐘淵化学工業** ガラスのように透けるタイプの太陽電池の開発に成功した。昼間は採光窓として、夜間は広告塔としての利用が可能になる。(11月8日付 日経)

***SIA(米国半導体工業会)** 2002年の世界の半導体売上高が、前年比1.8%増の伸びに留まるとの見通しと、中長期の平均成長率は8~10%程度になる事等を発表。(11月8日付 日経産業)

***政府** 2003年2月15日に土壤汚染対策法を施行することなどを盛り込んだ施行令、政令を決定する。(11月8日付 日刊工業)

***松下電器産業** 消耗品の交換需要を確実に取り込み安定収益源に育てる事を目的に、蛍光灯、バッテリーなど電気製品のレンタル事業を開始。年度内に企業向けの代理店網を組織化する。又、系列販売店を窓口とする家庭向けサービスも検討中。(11月9日付 日経)

***日本重化学工業** 経営再建中の同社は11日、電池用のリチウムマンガン電極材料事業を日本電工に営業譲渡する事を発表。(11月12日付 日経)

***日立製作所、日立ホーム&ライフソリューション** 地域ごとに分かれている販売、保守サービス、法人向け情報システムの各社を2003年4月1日付で合併する。(11月12日付 日経)

***日立マクセル** 携帯電話用リチウムイオン電池を中心とした二次電池事業の今年度の黒字化を目指し、生産性の向上に取り組み需要に対応へ。(11月13日付 日刊工業)

***同和鉱業** 環境、リサイクルや電子材料などの成長分野に積極投資し、これまでの選択と集中を一層進める内容の中期3ヵ年計画(03年四月から)を発表した。(11月13日付 日刊工業、日経産業&化学工業日報)

***ビーム総研** 自転車のサドル後方に取り付けるだけで、普通の自転車を電動化するキットを開発、年内にも本格発売する。(11月13日付 日刊工業)

***松下電器産業** 単4形アルカリ乾電池一本で連続31時間の長時間再生ができるSDプレーヤーを開発した。(11月14日付 日経産業)

***東芝** 直径300ミリの大口径シリコンウエハーを加工する半導体新工場の国内に建設する方向で検討を開始。設備投資額は2000億円近くになる。(11月14日付 日経)

***日本軽金属** 引張り強度を向上させた高機能アルミ合金板材を開発した。リチウムイオン電池のケース材として拡販へ。(11月14日付 化学工業日報)

***環境省** 対象物質の取り組み優先度をランキング、来年度からPRTRデータの本格活用に向けた取り組みを開始する。(11月14日付 化学工業日報)

***東芝電池** 事業多角化の一環として、注力中の消臭器シリーズにスリム機種を追加、12月から発売へ。尚、電源は単3形電池4本。(11月14日付 化学工業日報&日経産業)

***ナショナルセミコンダクター(日本法人)&ARM(英)** 携帯機器の電池寿命を最大4倍にする事が可能な電源管理用デバイスを共同開発する旨を発表。(11月14日付 化学工業日報)

***三菱電機** 乾電池の店頭展示提案強化の一環として、販売店を対象にした「買い場作りコンテスト」を10月から12月まで実施。(11月14日付 電波)

***ソニー** 国内外の部品・材料の調達先約4,000社を対象に環境監査を実施。有害物質などを使用していないかどうかチェックする。(11月17日付 日経)

***日本IBM** 18日から企業ユーザーを対象に使用済みパソコンの買取サービスを開始、パソコンを再資源化する。(11月18日付 日経産業)

***日立マクセル** 赤井社長 アルカリ乾電池は高性能の「ダイナミック」シリーズを強化し、国内はもとより更なる市場拡大を海外に行き事等を語る。(11月15日付 電波)

***シャープ** 米国テネシー州で2003年春から太陽電池モジュールの生産を開始する。同社が同モジュールを海外生産するのは、これが初めて。(11月15日付 電波)

***プラスチック重合・リサイクルリング研究所** 携帯電話等を丸ごと溶解させ樹脂や金属をマテリアルリサイクルするプロセスを確立、日米で特許を取得した。(11月15日付 化学工業日報)

***三井物産** 通信基地局の補充電源等として、国内で初めて実用型の燃料電池を今月から発売する。尚製造元はHパワー(米、燃料電池メーカー)、出力は500ワット。(11月17日付 日経)

***CCID(中国の有力IT市場調査機関)** 今年1~9月の中国国内携帯電話メーカーの販売ランキングを発表、一位はモトローラでシェア29%、以下ノキア、サムスン電子の順。(11月16日付 日経)

***産業技術総合研究所&NOK** 筑波研究所 有機溶媒に吸蔵させた水素を低コスト、高効率で回収する新技術を開発した。燃料電池への簡便な水素供給の手段として期待されそう。(11月18日付 日刊工業)

*東邦亜鉛 素材技術を生かし、電子部品事業に注力、05年度売り上げ100億円を目指す。
(11月18日付 電波)

*カメラメーカー各社 基幹部門でありながらバブル期以降収益減で苦しんでいたカメラ事業部門が、デジタルカメラの需要の急増で全体の利益を先導する存在に変身、不況下で輝きを増している。
(11月18日付 日経産業)

*松下電器産業&ノキア 携帯電話とAV(音響・映像)機器をインターネットで接続する技術を共同開発する事で合意した。2003年度以降に関連機器を商品化する。
(11月19日付 日経)

*堀場製作所 有害物質の使用を規制する欧州指令の発行を前に、有害物質を高感度で検出する蛍光X線専用検査装置を開発、20日から販売活動を開始へ。
(11月19日付 日経)

*ナショナル自転車工業 電動アシスト自転車にマンガンを正極に用いたリチウムイオン電池を採用した事等により、約半年でトップシェアを獲得した。
(11月19日付 化学工業日報)

*トヨタ自動車 国内で初となる燃料電池自動車の販売認定を国土交通省から取得した。12月2日から内閣官房等にリース方式で発売する。
(11月19日付 日経、日経産業&日刊工業)

*東京電力&日本ガイシ 共同開発のNAS電池が実証から商用の段階に入って来た。当面年産6万キロワットの規模だが、数年後には年産20万キロワットに拡大させる計画。又、ナトリウムと硫黄が消防法上危険物扱いになるため実績を出し規制緩和を働きかけて行く予定。
(11月22日付 日経産業)

*新日本石油 国内給油所の自家発電用として、自社製燃料電池(発電出力8.5キロワット)の設置を進める。2005年度までに約100箇所、2010年には1,000箇所を予定。
(11月22日付 日経産業)

*名古屋大学工学研究科 リチウムイオン電池用に微量の特定元素を添加したリチウムマンガン化合物(LiMnO₂)を開発した。容量は170mAh/gと高水準。
(11月22日付 日刊工業)

*華為技術 中国の大手通信機器メーカーで、同社の日本市場への進出が日本の通信機器業界に衝撃を与えている。
(11月28日付 日経産業)

*NTT 携帯電話やPDA等の携帯電子機器に広く使える太陽電池組込み型の汎用充電器を開発、来年度にも実用化を予定。充電電気量は2.4ワットアワー。
(11月28日付 日経産業)

*新神戸電機 ヤマハ発動機が来春から量産発売する電動スクーター向けに、円筒形マンガン系リチウムイオン電池(重量は6キログラム)の供給を開始する。一充電当り最高時速32キロメートルで30キロメートル走行が可能。
(11月28日付 化学工業日報)

*三菱電機&東洋高砂乾電池 両社の乾電池事業の合理化を目指し、三菱電機が東洋高砂乾電池を完全子会社化することで合意し、28日株式交換契約を結んだ。完全子会社化により東洋高砂乾電池は乾電池製造を止め、三菱ホーム機器に乾電池事業は移管する。
(11月29日付 日経、電波、日経産業、日刊工業&化学工業日報)

蓄電池設備整備資格者

講習修了考査合格者

徳島・茨城・神奈川会場分

電池工業会は、10月16・17日徳島県、11月19・20日茨城県、12月4日・5日神奈川県で開催した、蓄電池設備整備資格者講習の修了考査に合格した者の氏名を発表した。

合格者(合格率)は、徳島17名(100%)、茨城41名(89.1%)、神奈川113名(95.0%)であり。合格通知は直接本人に通知される。

<徳島県>

徳永陽一、浦中安生、大高章義、永見慎治、小西 勲、山下正治、加藤暁男、畑中 誠、田村 隆、谷口健司、岩崎芳則、郷田憲司、白濱哲也、中妻善信、吉岡一男、大庭秀嗣、遠藤 昇。

<茨城県>

栗野 修、五木田 武、本田喜則、庄司貴志、穂本貴弘、萩谷修一、田井雄次郎、瀬古沢秀男、小川浩之、木村勝利、佐藤政浩、木村新一、森 崇博、塚本敏明、鈴木光浩、菊池八恵、加藤政明、赤城 明、水野博巳、塙 秀雄、白井雅史、飯塚 訓、小林秀久、平間修一、広瀬澄男、松島正幸、庄司謙二、岩田正弘、飯ヶ谷大介、高橋 明、小磯龍一、鈴木亨市、南指原弘之、加藤 将、青山隆則、野本武夫、角田 啓、根本仁史、湯原 淳、伊藤雅人、倉本雅透。

<神奈川県>

遊佐孝志、黛 良享、藤倉和一郎、佐藤康弘、田村勝義、金川浩一、野田佳央、地田泰博、竹村正竹、藤好祐一朗、勝間田幸広、清 紀介、佐藤博文、鈴木大祐、滝沢大吾、岩崎正行、渡部丈夫、佐藤大輔、阿部仁志、戸田則之、三浦秀男、相馬 博、若尾将士、吉田浩和、上野慎一、向井雄三、小川貴之、松本孝弘、西田浩一、山田光男、中尾明久、石原昌晃、高橋新市、加藤弘之、山本雅之、長谷川浩二、真栄城 健、杉崎直樹、北 大輔、金子一弥、上村精司、栗和田正一、小野 稔、村城明典、小林正夫、渡邊 実、増田亮一、村松大輔、山口 仁、早川宗一、時田 誠、穂坂 強、宮本秀司、望月克哉、植松和秀、工藤秀樹、鈴木雄二、野本倫弘、江藤大輔、諏訪陽一、西村一往、分銅三郎、土館秀雄、沼里昌樹、恩田美砂、坂本昌一、八木原和宏、石橋孝夫、重田和宏、久野日出八、今川幸夫、林田伸吾、小川康平、宮崎 淳、澤野輝男、水品誠一、石橋正幸、山下太郎、中島 勝、島野良紀、武内 敢、浅井典彦、久保田健人、中野和男、西田太郎、大熊 和、高山 勉、阿部忠雄、曾我貴幸、中山容輔、甲賀忠雄、橋本光二、井原 孝、宮入経雄、齋藤長夫、石本栄助、田尻富雄、吉沢昭治、石川光男、古田健太郎、高山三千男、長橋清友、野崎 茂、本多由典、小野成博、有福良行、番所栄二、湯崎信昭、松下一哉、梶山 徹、石井敬介、江間 一、近賀秀夫。

平成14年 12月度の電池工業会活動概要

部会	12月度開催日	委員会・会議	主な審議、決定事項
特別会議その他	4日(水)	広報委員会一次・小形二次WG	*手作り乾電池教室等各種イベントの総括と反省点の確認
	5日(木)	プロ野球最優秀バッテリー賞表彰式	*東京プリンスホテルにて(巨人)上原、阿部、(西武)豊田、伊東が受賞
	6日(金)	合同PL委員会	*宇田川先生を囲んでの事故事例対応の勉強
	17日(火)	マイクロFC標準化委員会設立連絡会	*携帯機器用超小型燃料電池の標準化の為の準備検討
	18日(水)	広報委員会・展示会WG	*来年度の展示内容の確認と問答集の充実
	20日(金)	広報二次電池WG	*キャンペーン進捗確認、WG運営改革討議
	20日(金)	広報委員会	*各WG活動報告と確認、委員会運営改革討議
二次電池部会	2日(月)	産電技術サービス分科会	*「蓄電池設備の劣化診断指針」検討・その他
	3日(火)	二次電池リサイクル(委)拡大事務局・分科会合同	*産業用電池新リサイクルスキーム審議・申請準備
	3日(火)	小形鉛分科会	*SBA指針改正案に対する前回標準化委員会指摘事項の回答内容。
	4日(水)	(自)リサイクル特別プロジェクト	*自動車電池(二輪含む)新リサイクルスキーム検討
	5日(木)	(自)リサイクル特別プロジェクト	*自動車電池(二輪含む)新リサイクルスキーム検討
	5日(木)	資材委員会	*自動車・産業用電池新リサイクルスキーム審議。再生鉛利用の件
	6日(金)	技術委員会	*各分科会の進捗状況。IEC電流表示方法の分科会への適応について
	9日(月)	(自)技術サービス小委員会	*全整連テキスト改正案(電池関連)。「暮らしの中の電池」見直し案
	10日(火)	(自)リサイクル特別プロジェクト	*自動車電池(二輪含む)新リサイクルスキーム検討
	11日(水)	(自)リサイクル特別プロジェクト	*自動車電池(二輪含む)新リサイクルスキーム検討
	12日(木)	(自)需要予測小委員会	*実績確認と内容検討、委員会の運営改革討議
	12日(木)	二次電池リサイクル(委)拡大事務局・分科会合同	*産業用電池新リサイクルスキーム審議・申請準備
	12日(木)	EV用電池委員会	*電動車両協会より作成依頼のHEV用電池規格の最終案
	13日(金)	産業用電池小委員会	*産業用電池新リサイクルスキーム審議
	16日(月)	資材小委員会	*産業用電池新リサイクルスキーム審議・申請準備
	16日(月)	充電器分科会	*JISC4402「浮動充電用サイリスタ整流装置」改訂審議・その他
	16日(月)	(自)リサイクル特別プロジェクト	*自動車電池(二輪含む)新リサイクルスキーム検討
	17日(火)	(自)リサイクル特別プロジェクト	*自動車電池(二輪含む)新リサイクルスキーム検討
	17日(火)	据置鉛分科会	*H15年度作成のJIS(ベント形据置鉛蓄電池)改正案
	18日(水)	二次電池リサイクル(委)拡大事務局・分科会合同	*産業用電池新リサイクルスキーム審議・申請準備
	19日(木)	PL委員会国土交通省報告会	*02年上期のバッテリー爆発事故報告と対策案の支援依頼
	19日(木)	据置アルカリ分科会	*JIS制定案に対する規格協会指摘事項の回答内容。
	20日(金)	用語分科会	*SBA指針「規格票作成マニュアル」制定案。
	24日(火)	(自)リサイクル特別プロジェクト	*自動車電池(二輪含む)新リサイクルスキーム検討
24日(火)	自動車鉛分科会	*H15年度作成のJIS改正案。H15/1月開催標準化委員会資料	
24日(火)	産電技術サービス分科会	*「直流電源装置の定期点検項目及び点検周期技術指針」見直し審議他	
小形二次電池部会	10日(火)	小形二次電池部会	*産業構造審議会ガイドライン対応等の審議
	12日(木)	新種電池研究会	*活動内容・情報等の意見交換
	13日(金)	ニカド・ニッケル水素分科会	*IEC規格国際投票の最終審議、JIS規格新規制定の事前審議等
	13日、14日	アルカリ分科会	*松下エコテクノロジーセンター見学、回収率目標の検討
	18日(水)	リチウム二次分科会	*IEC規格国際投票の最終審議
	18日(水)	リチウムイオン分科会	*回収率算定方法及び回収率目標の検討など
	19日(木)	再資源化委員会	*各分科会報告、回収率目標の検討など
	20日(金)	安全性ガイドライン策定WG	*英文ガイドライン最終確認、IEEE規格化審議状況の確認
25日(水)	業務委員会	*11月度 出荷実績、海外生産の検討及び需要予測のまとめなど	
一次電池部会	4日(水)	循環技術委員会	*来年度取組課題と予算の考え方・当面の電池処理実験を決定
	5日(木)	器具委員会・技術WG	*SBA規格の改定点の最終確認と審議会日程の決定
	9日(月)	JIS小委員会	*JIS C 8501(マンガン乾電池)改正案の審議
	9日(月)	IEC小委員会	*IEC規格 応用試験、時間公差等の審議
	9日(月)	リチウムWG	*リチウム輸送安全性規格 CDV文書審議
	11日(水)	環境対応委員会	*来年度取組課題と予算の考え方・ボタン電池等の回収取組
	13日(金)	業務委員会	*海外電池分析方法の確認とリユース電池等への対応の協議
	21日(土)	循環技術委員会・再資源化技術情報収集	*ダイワスチール(株)水島事業所を訪問・意見交換
25日(水)	一次電池技術委員会	*小委員会審議内容の確認、水銀汞化率低減のまとめ、書記交代	

●●●●● 新製品ニュース ●●●●●

センサーで自動点灯・消灯 乾電池式「スポーツかしこいランプ」を発売 用途に応じて2つの光源を選択



松下電器産業(株)と松下電池工業(株)は光センサーと振動センサーの組合わせにより、暗くなって走行すると自動点灯し、停止すると自動消灯するスポーツサイクル用センサーライト「スポーツかしこいランプ」を12月16日から発売します。

本製品は、走行中に路面をしっかり照らすハロゲンミニチュア球を採用しており、照射幅も従来比1.5倍にワイド化しました。(当社スポーツランプNL-815比)また、薄暗い時や押し歩き時に補助ライトとして使える高輝度白色LEDを装備しており、用途に応じて二種類の光源を選択できます。さらに周囲からの自転車の視認性を高めるため、高輝度白色LEDは点灯、点滅のモード切り替えが可能です。

自動点灯・消灯するため、うっかりして無灯火で走行することによる夜間の自転車事故を未然に防ぐことを狙っています。

[特長]

1. 夜走れば自動点灯、止まれば自動消灯
・スイッチ操作不要
2. ハロゲンミニチュア球と高輝度白色LEDの使い分けができる
・従来の照射幅約40cm (NL-815) から約60cmにワイド化 (ハロゲンミニチュア球使用時)
3. 高輝度白色LEDはスイッチにより点灯、点滅のモード切り替え可能
4. 工具不要の本体ワンタッチ着脱
5. 自転車から外せば自動的にスイッチオフ
6. 雨の中でも使用可能な防滴構造
7. 使用電池:単3形乾電池×4コ

東芝デオドライザー エアリオン・シリーズ 新商品「エアリオン・スリム」発売



東芝電池株式会社(社長 鈴鹿 芳朗)は、消臭器エアリオン・シリーズの新商品を12月より発売します。

当社は、今年6月に株式会社環境浄化研究所が開発した、悪臭の分子を化学反応によって吸着し無臭・無害にさせる新技術、グラフト重合法を用いた消臭剤を使用する消臭器「エアリオン DC-210(w)」の発売を開始しました。

今回、エアリオン・シリーズ第3弾となる新商品「エアリオン・スリム DC-230(w)」は、既存品「エアリオン DC-210(w)」に比べ、スリム化して、壁掛けも出来るフックをつけることで、置き場所のスペースを取らず効果的に消臭ができるよう配慮されています。また、使用期間も従来の約30日から約60日間程度、消臭効果を持続させることが可能となりました。

さらに使用する消臭剤も、既存品を大幅に改良した交換用ジェル「エアリオン・ジェル100SP」を同時に発売します。「エアリオン・ジェル100SP」は、従来の寒天状ジェルから高分子ジェルに変更し、併せて高濃度化することにより、消臭能力を高めるとともに、低温及び高温に対する特性を上げるなど、従来品よりも更に強力な消臭効果を発揮します。

[特長]

1. 最新技術、グラフト重合法による驚きの強力消臭!
・悪臭の分子を芳香剤で包み込み、悪臭を感じなくさせる従来のマスキング法ではなく、最新技術グラフト重合法によって開発された無香料消臭剤です。
・悪臭の分子を化学反応によって吸着するので、消臭速度が速く、効果も長時間持続。
・一度吸着した悪臭を再放出しません。
・花や天然アロマなど芳香は消臭せず、生ゴミ臭、ペット臭など、生活悪臭のほとんどを消臭します。また、シックハウスの原因となるホルムアルデヒドや、タバコから出るアセトアルデヒドも吸着します。
2. スリムなボディで場所をとらない!
3. パイロットランプにより電池と消臭剤の交換をお知らせ。
4. 使用電池:東芝単3形アルカリ電池 4本

10月度電池および器具販売実績(機械統計)

(平成14年10月)

単位:数量=千個、金額=百万円(本年よりマンガン乾電池の単二がその他に含まれました)

	単 月				1月~当月累計			
	数量	金額	数量 前年比	金額 前年比	数量	金額	数量 前年比	金額 前年比
電池・器具総合計	584,685	63,074	114%	106%	5,166,803	568,287	99%	95%
全電池合計	583,825	61,678	114%	107%	5,158,140	554,308	99%	95%
一次電池計	425,352	14,910	115%	111%	3,793,803	133,548	100%	98%
マンガン乾電池計	100,314	1,945	112%	106%	914,392	18,151	95%	90%
単一	11,374	573	106%	108%	98,635	5,078	90%	88%
単三	46,594	703	95%	95%	468,884	7,040	87%	84%
その他	42,346	669	140%	118%	346,873	6,033	109%	100%
アルカリ乾電池計	123,125	6,554	110%	110%	1,088,122	58,218	94%	91%
単三	77,100	3,496	104%	103%	687,105	31,469	92%	87%
単四	25,999	1,272	122%	114%	233,411	11,360	94%	86%
その他	20,026	1,786	122%	123%	167,606	15,389	104%	107%
酸化銀電池	83,813	954	119%	116%	820,464	9,110	102%	100%
リチウム電池	110,728	5,173	117%	113%	904,830	45,151	108%	110%
その他の乾電池	7,372	284	171%	159%	65,995	2,918	163%	162%
二次電池計	158,473	46,768	112%	106%	1,364,337	420,760	98%	94%
鉛電池計	3,211	10,499	94%	94%	33,602	111,894	93%	90%
自動車用	2,058	6,792	107%	99%	19,512	63,391	100%	94%
二輪用	347	669	103%	103%	3,806	7,374	91%	96%
小形シール	618	687	66%	77%	8,132	8,552	80%	83%
その他	188	2,351	87%	85%	2,152	32,577	87%	85%
アルカリ電池計	94,697	11,568	99%	102%	875,249	105,118	89%	90%
完全密閉式	42,847	5,362	111%	114%	416,723	48,111	93%	98%
ニッケル水素	51,806	5,933	91%	93%	458,205	53,273	86%	83%
その他のアルカリ電池	44	273	275%	113%	321	3,734	192%	109%
リチウムイオン電池	60,565	24,701	143%	114%	455,486	203,748	122%	99%
器具計	860	1,396	78%	83%	8,663	13,979	93%	90%
携帯電灯	469	439	83%	87%	4,683	4,728	92%	93%
電池器具	391	957	72%	81%	3,980	9,251	95%	89%

10月度電池輸出入実績(財務省貿易統計)

(平成14年10月)

単位:数量=千個、金額=百万円(少数以下四捨五入の為、合計が合わないことがあります)

	単 月				1月~当月累計			
	数量	金額	数量 前年比	金額 前年比	数量	金額	数量 前年比	金額 前年比
全電池合計(輸 出)	319,382	34,312	108%	112%	2,818,736	287,445	101%	96%
一次電池計	175,527	3,640	105%	106%	1,625,323	34,514	98%	99%
マンガン	55,896	501	107%	125%	520,164	4,972	105%	122%
アルカリ	15,696	351	63%	70%	160,542	3,359	65%	75%
酸化銀	35,101	426	124%	121%	351,565	4,221	100%	97%
リチウム	66,104	2,302	111%	109%	567,280	21,271	106%	107%
空気亜鉛	2,546	44	121%	119%	22,306	461	120%	129%
その他の一次	183	15	27%	58%	3,467	230	45%	58%
二次電池計	143,856	30,673	113%	113%	1,193,413	252,931	106%	96%
鉛蓄電池	319	622	85%	87%	3,866	6,966	72%	77%
ニカド	36,405	3,683	116%	124%	351,282	32,488	98%	101%
ニッケル鉄	0	0	0%	0%	52	17	23%	51%
ニッケル水素	39,599	3,723	83%	86%	348,164	34,198	85%	73%
リチウムイオン	54,821	20,398	162%	123%	380,155	159,350	137%	104%
その他の二次	12,712	2,246	89%	86%	109,893	19,912	133%	87%
全電池合計(輸 入)	64,324	5,282	134%	136%	442,280	38,595	119%	111%
一次電池計	60,021	2,636	132%	248%	409,184	14,153	122%	141%
マンガン	11,189	163	104%	102%	89,818	1,261	98%	95%
アルカリ	43,059	905	147%	151%	283,977	5,845	131%	130%
酸化銀	36	2	10%	26%	2,710	58	80%	75%
リチウム	1,883	152	51%	108%	15,730	1,335	118%	133%
空気亜鉛	404	13	63%	52%	3,298	130	111%	102%
その他の一次	3,449	1,401	646%	1081%	13,650	5,525	196%	184%
二次電池計	4,303	2,646	156%	94%	33,096	24,441	91%	99%
鉛蓄電池	502	1,391	92%	79%	4,775	12,372	104%	97%
ニカド	1,474	314	118%	87%	12,644	3,893	107%	100%
ニッケル鉄	0	1	13%	33%	3	8	38%	31%
ニッケル水素	-	-	-	-	-	-	-	-
リチウムイオン	-	-	-	-	-	-	-	-
その他の二次	2,326	940	240%	137%	15,674	8,168	79%	103%